

西宮 えびす

平成20年
夏号



おこしや祭り
六月十四日

諸国探訪 下市蛭子神社

西宮まつり / おこしや祭

えびす瓦版



えびす
萬燈籠
七月二十日

えびす NISHINOMIYA EBISU 平成20年夏号

西宮えびす 平成20年夏号(通巻第29号) 平成20年6月1日 発行
発行/西宮神社 TEL:0798-33-3331 FAX:0798-33-3331
発行/西宮神社 TEL:0798-33-3331 FAX:0798-33-3331

編集/総務課広報 印刷/小西印刷所

西宮神社社会館 「灯の夕べ」 特別ディナーのご案内

酷暑の夜を涼しげに彩る
「えびす萬燈籠」
西宮神社社会館では
さらにお楽しみいただけるよう
特別メニューをご用意いたしました
ぜひご賞味下さい



「年末年始臨時奉仕者募集」

正月・十日えびすにかけて、例年百五十万人以上の参拝者がお参りになります。これに合せ毎年百人ほどの女性臨時奉仕者を募集いたしております。笑顔が福々しい、やる気のある女性の応募をお待ちしております。

【奉仕内容】 迎春準備作業・正月十日えびす期間の神札の授与・参拝者対応など

【奉仕期間】 平成二十年十一月三十日～平成二十一年一月十五日(奉仕日時は応相談)

【応募資格】 十八～二十三歳までの未婚の女性(※高校生は迎春準備作業のみ)

【応募方法】 応募用紙は平成二十年十月一日から当社社務所にてお渡ししますので、直接受付までお越し下さい。応募用紙の提出期限は十月二十三日までです。

大会 大撲相撲 子供参加者募集

平成十八年より沖恵美酒神社祭(七月十日)に合わせて直前の日曜日(本年は七月六日)に、お子様の健やかな成長を願う子供相撲大会を奉納してまいります。三歳(幼稚園・保育園相当)から小学六年生のお子様まで、男女問わず募集いたしておりますので、ご家族そろっての参加をお待ちいたしております。

【競技方法】 年齢別に分かれてのトーナメント戦

【競技日時】 平成二十年七月六日(日) ※競技開始時間は部門ごとに異なります。

【参加資格】 幼稚園・保育園児から小学六年生までの男女

【応募方法】 社務所受付にて応募用紙を用意しております。当日の予約状況によっては飛び入り参加も受け付けます。



◆各募集へのお問い合わせは西宮神社社務所(Tel.0798-33-0321)にお寄せ下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

編集室から

西宮市が中核市に移行されました。兵庫県では姫路市に続いてのことで、平成二十二年には尼崎市も移行を予定しています。西宮だけでなく、姫路・尼崎が二心となって兵庫県をますます盛り上がっていくことを祈念いたします。

西宮中央商店街に戎座人形館が建設されます。昔、西宮は人形操りの盛んな地でしたが、今はすっかり途絶えてしまいました。そこで人形操りの地・西宮を復興すべく出来たのがこの戎座人形館です。淡路などから人形操り師の方々をお招きし、子ども達に人形操りを教え将来的には西宮の人達の手で上演することを目的にしています。お近くにお越しの際は是非ご覧くださいませ。



開館を待つ戎座人形館

平成二十年 六月から十一月の行事ご案内

8月24日 11時	愛宕神社祭
31日 10時	夏祭・船だんじり
20日 18時30分	萬燈籠点灯式
14日 10時	夏祭・湯立神楽
10日 11時	住吉祭
7月6日 10時	沖恵美酒神社祭
10日 11時	住吉祭
30日 15時	大祓式(住吉神社)
16時	大祓式(西宮神社)
6月14日 14時	おこしや祭
17日 10時	弁天社祭
11時	市杵島神社祭
30日 15時	大祓式(住吉神社)
16時	大祓式(西宮神社)
7月6日 10時	子供相撲大会
10日 11時	沖恵美酒神社祭
14日 11時	住吉祭
20日 10時	夏祭・湯立神楽
31日 18時30分	萬燈籠点灯式
8月24日 11時	愛宕神社祭



船だんじり



観月祭

前回・前々回にわたりご好評を頂いた行事案内。今号も引き続き六月から十一月までの行事情報をお伝えします。

9月10日 11時	浜戎神社祭
14日 18時	敬老の日祭
15日 10時	庭津火神社祭
21日 11時	宵宮祭
22日 17時	例祭
22日 10時	秋分の日遥拝式
23日 7時	渡御祭
10月4日 9時50分	宮水祭
12時	酒ぐらルネサンス(5日)
13日 10時	体育の日祭
17日 10時	神宮遥拝式・神嘗祭奉祝祭
25日 10時	菊花展(11月23日まで)
11月3日 10時	明治祭
10日 10時	金刀比羅神社もみじ祭
20日 10時	誓文祭
22日 14時	造営記念祭
23日 10時	新嘗祭
11月1日・10日・20日	西宮神社旬祭
1日・15日	住吉神社月次祭
毎月第三土曜日	骨董市



酒ぐらルネサンス



菊花展

※青字は境外末社住吉神社(西宮市西波止町4-4)の行事です
 ※行事の日時は社務・天候等により変更の場合があります。
 事前に西宮神社社務所(0798-33-0321)・住吉神社社務所(0798-32-0230)にお問い合わせ下さい。

諸国探訪 十一

「ご神火の祭典」 下市蛭子神社

奈良県吉野郡下市町大字下市 桶谷 忠博氏

『蛭子神社』
 (吉野郡下市町大字下市)本町の管理
 下市町を南北に貫流している秋の川の畔、本町(浦町)に鎮座せられ、現今本町の住人で祭神事代主命であると称するのは社名より察すると蛭子命であり、事代主命と蛭子命とを混同し伝承せられたものかと考えられる。(内務省神社明細帳)には蛭子命と明記されている。
 同社は戎社の総本社である西宮神社(西宮市)より分霊を受け当地に勧請鎮座せられたと考えられ、俗称いわゆる戎神とはこの蛭子命であり、由来商業の神として靈験あらたかである。すなわち下市の市場(往古は六斎の市と称した)が隆盛になり市の繁栄を祈願する村人の心の結集が戎神の奉斎となったものであろう。



市の名残であつて昔時は月一七を市場日とし月に六回の市が行われていた。即ち六斎の市と称せられ遠近の商人相集まり頗る殷賑を極めていた。当地方は地勢険峻であり錢貨の持運びは誠に不便であつたので、村内在住の有福の商人が銀目を紙に書きつけて之を「切手」と名付けて発行し始めた。これがいわゆる「下市札」と称せられ、手形流通の嚆矢であると言われる。
 『初市』
 蛭子宮恵比須神社の祭礼と共に開かれる初市は、下市の年中行事中最大のものとあり、共に又親しみも深く、奈良県下においても稀に見る盛大な祭事として知られている。
 二月十日宵宮祭(前夜祭) 二月十一日宵宮祭(後祭) 二月十二日本宮祭 二月十三日後宮祭 二月十四日宵宮祭 二月十五日宵宮祭 二月十六日宵宮祭 二月十七日宵宮祭 二月十八日宵宮祭 二月十九日宵宮祭 二月二十日宵宮祭 二月二十一日宵宮祭 二月二十二日宵宮祭 二月二十三日宵宮祭 二月二十四日宵宮祭 二月二十五日宵宮祭 二月二十六日宵宮祭 二月二十七日宵宮祭 二月二十八日宵宮祭 二月二十九日宵宮祭 二月三十日宵宮祭

して加えられ、本町子供会の御輿により千石橋南詰よりご神火を松明に点火して中吉野警察の応援により蛭子神社総代、子供会の皆さんがハッピ姿で蛭子神社に向う。本町区長、下市区長、下市町長、蛭子神社総代表、神主様と厳かにご神火をお迎えして、その意義を層層深めている。神前には数々のお供え物が供えられ大小の饅頭と山の物、海のもの、酒、清酒と〇〇以上に及びその壮観さは県下一と名されている。
 本宮祭においては子供供みこし〇台神社付近の町がチンドン屋の音にあわせて参加している。人出は二万五千〜二万人で露天商は二七〇軒出店している。また下市商工会の地場物産品、朝市の新鮮野菜市、また十三日の後宮祭後にはご神火は神主様の拝礼後古いお札に点火させていただいております。
 初市の実行委員会の人達も高齢化が進み、組織の見直しが必要になってきた。
 (※ 部下町より抜粋)



『下市札』
 下市町は吉野郡の主邑であり、その関門に当り、往古より奥地との交流は極めて頻繁で物資集散の好適地であつた。このため売買交易の法は他地方より早く開け、市場の取引は誠に盛んであつた。俗謡にも「山家なれど下市は都大阪商人の津でござる」と歌われていたように、その盛時の風が偲ばれる。現今二月十二日に行われている初市と称する戎祭は、昔の

二月十二日本宮祭 二月十三日後宮祭 二月十四日宵宮祭 二月十五日宵宮祭 二月十六日宵宮祭 二月十七日宵宮祭 二月十八日宵宮祭 二月十九日宵宮祭 二月二十日宵宮祭 二月二十一日宵宮祭 二月二十二日宵宮祭 二月二十三日宵宮祭 二月二十四日宵宮祭 二月二十五日宵宮祭 二月二十六日宵宮祭 二月二十七日宵宮祭 二月二十八日宵宮祭 二月二十九日宵宮祭 二月三十日宵宮祭
 初市は前日の十日の宵宮祭の夕刻、西宮神社の御神火を奉じて蛭子神社に到着しこれを神前に点火せられてから始まる。
 これは昭和二十九年より新しい試みの儀式と

◆下市蛭子神社由来
 祭神は蛭子命で社名を蛭子神社と称する。下市秋野川右岸本町(浦町)に鎮座せられ商業の神として靈験あらたか多くの入々の信仰があり、例祭は二月十一日で例祭の前夜三日間初市と称し、往年の名残で大変な賑わいである。
 戎信仰が広まったのは鎌倉時代で、当地に奉祀されたのは室町末期と思われる。文久二年九月夜、天誅組の放火により焼失し、本殿・拝殿・神門は明治二年再建による。昭和六年に大修繕を行い現在に至る。
 境内本社として右に福徳神社、滝船大明神、左に金比羅神社、金山彦命がある。神社境内北側に六百年を超える桜があったが昭和五十年代に枯れ、現在本殿の額にその部を保存している。

西宮まつり

平成二十年九月二十一日(日)〜二十三日(祝)

「渡御祭」

平成十七年度より浜脇・用海・安井と、各氏子地域にお旅所を設けてまいりました。本年は「巡目最後の地区」となる香櫛園地区が舞台です。例年通り三日間にわたって奉納演芸会・稚児行列・子ども樽みこし・だんじり等、各種神賑行事で西宮を賑わせます。

9月21日

午後5時 宵宮祭 西宮神社本殿
西宮まつりの開催を奉告し、お祭り三日間の安全無事を祈願します。
午後6時 奉納演芸会 境内特設舞台
地元の方々やゲストを招いて各種演芸を奉納します。

9月22日

午前10時 例祭 西宮神社本殿
当社で最も重要な祭典で、全国から崇敬者の参拝があります。
午後3時 稚児行列 西宮中央商店街
かわいらしい稚児さん約200人が商店街を行進します。
午後5時30分 こども樽みこし 西宮中央商店街
子供会のみこし・プラスチック・男女みこしが、にぎやかに商店街を練り歩きます。



浜脇中学校のみなさん

9月23日

午前10時 発興祭 西宮神社本殿
神輿に神様をお遷しし、神輿渡御の始まりを奉告します。
午前11時30分 陸渡御 香櫛園地区
神輿を中心に、時代装束を身にまとった氏子らがお旅所を目指して練り歩きます。
午後0時10分 御旅所祭 香櫛園地区
海上安全を祈願するとともに童女神楽を奉奏し、ご神慮をお慰めます。
本隊・分隊に分かれて行動



稚児行列

【人形講船】

大阪天神祭の「人形船講」の渡御船です。賑やかな天神囃子で海上渡御の雰囲気を感じ上げます。



本隊

進行方向→



【先祓船】

道開きの神様である猿田彦、海上を祓う大麻所役などが乗船します。船団の先頭を歩き、後続船団の進路を清めます。



【委員長・楽人船】

えびす様のお膝元西宮中央商店街から選ばれた渡御委員長、また神幸中に奏楽を勤める楽人が乗船します。



【御座船】

えびす様のご本体を奉載する船です。海上渡御に先立ち神輿から船内の神輿にご神体をお遷ししています。



八乙女船



【八乙女・童男・童女船】

氏子地域から選ばれた八乙女・童男・童女が乗船します。かざままつりにおいては同船より八乙女が切麻を撒き海上をお祓いします。

【供奉者船】

行列奉仕者が乗船します。



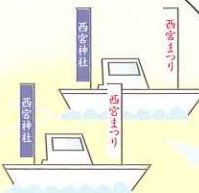
【淡路人形船】

淡路にて人形浄瑠璃の継承に取り組んでいる「淡路人形芸舞組」が乗船。かざままつりにおいてえびす舞を奉納します。



【産宮参船】

えびす様のご鎮座伝承に従い、本隊とは別に神戸の和田岬へ向かい、同地の和田・三石両神社に参拝します。



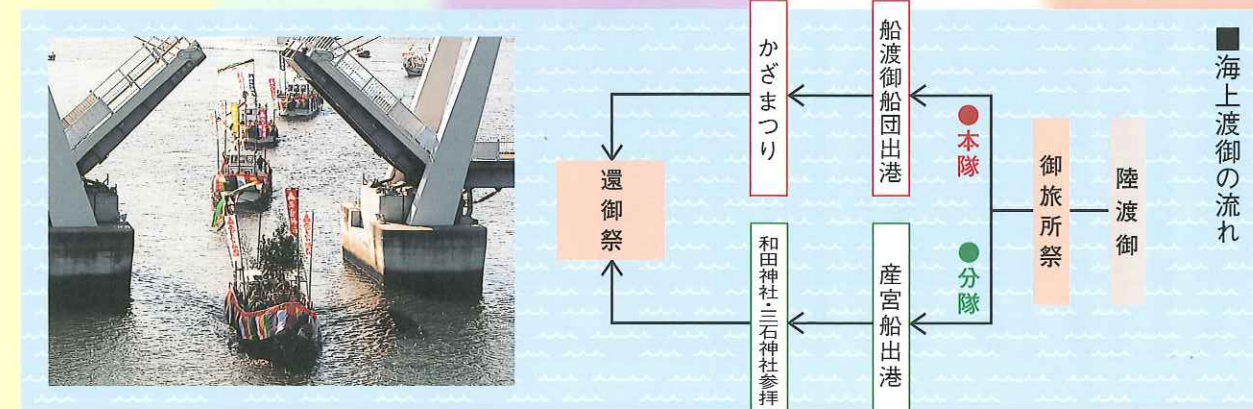
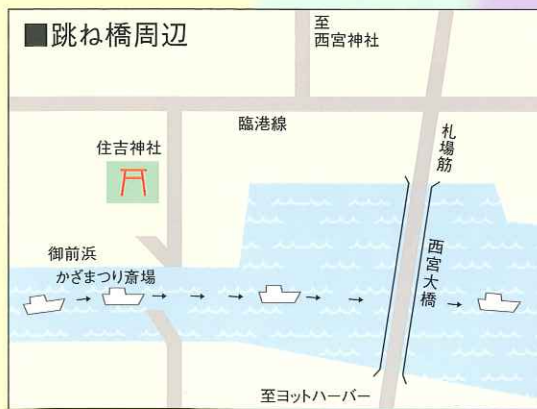
分隊

その他関係者・参列者等の方が乗る船、警戒船が数隻同行します

「船渡御船団」

毎年、海上渡御には十艘を超える船が供奉します。船ごとにはそれぞれの役割があり、えびす様のご神幸に威儀を添えます。今号ではご神幸に随行する船とその役割をご紹介します。(船団は平成十九年度の例です)

また、本年度より、年ごとの担当地区の氏子の方々に乗船していただく「氏子地区船」を加えることとなりました。本年度もますます西宮まつりの充実を図ってまいります。



※各行事の時間は予定です。また天候等により、神事の変更がござります。あらかじめご了承ください。

時の西宮神社社用日誌を
ひもとく「えびす瓦版」
今号は文政十三年
(天保元年一八三〇)です。



- | | | | | | | | |
|-----|----------|----|------|----|-------|----|----------|
| 神主 | 吉井上総介良明 | 祝部 | 大森主膳 | 祝部 | 廣瀬右京 | 神子 | 瓶子喜兵衛 |
| 権神主 | 吉井宮内(良頭) | | 大森致馬 | | 堀江左門 | | 大石長太夫 |
| 社家 | 東向良丸 | | 大森帯刀 | | 橋本弥太郎 | | 社役人 辻 左内 |
| | | | | | | | 田村織衛 |

近衛殿家より御神馬奉納

伊丹衆中の尽力による

「西宮社頭年来近衛殿御信仰」の故を以つて、伊丹の筒井四郎右衛門、小西新右衛門、原左二郎等が尽力し、閏三月に「盤年山」と号す御神馬一疋が奉納されることとなった。神社側では、四年前に近衛様より同じく御神馬奉納があった大津四之宮神主志賀越前方へ御使者衆への挨拶、御神前の作法について尋ね、また八幡宮には御神馬の別当山本三右衛門へ鷹司家からの奉納の際の神馬奉納勤式を伺った。その後伝奏家や大坂御奉行所への御届も済ませ、いよいよ御神馬を迎える日となる。

閏三月廿一日、武庫川髭茶屋で祝部二人が迎え、廣田村の祝部廣瀬宅で少休され、それより当社へ向かう。

う。神主は拝殿前で出迎える。御馬を拝殿正面へ引連れてきた処、御本殿を向いていななき二声がある。一行の宿は本陣松村儀左衛門方で、酒は伊丹名酒白玉や西宮酒、菓子は虎屋の干菓子と西宮菓子、茶は喜撰山吹を用意する。近衛殿家からの御寄附状は次の通り

御馬 盤年山 栗毛
此度當社江為神馬被寄附者也
此旨可申達 近衛殿仰候也
文政十三庚寅年閏三月
今大路内藏権頭
斎藤宮内権大輔
吉井上総介殿
(大奉書二つ折に認める)

また、この他にも神馬の具として手綱、面掛等二十四点が奉納される。そして西宮社前での式は、
音楽：各着座…中臣祓…神楽…音楽…開御戸…御膳献上…奉幣(東御殿)…御寄附状…近衛殿よりの白銀献上…中臣祓…神楽…音楽…撤御膳…閉御戸…退出

神事舞太夫頭田村八太夫と濟口證文

田村八太夫は上総国周准郡貞元村に住む西宮夷願人宮崎土佐を相手取り職掌差障りの件につき訴訟した。妻に梓神子を勤めさせたり、他職へ婿養子になったりと重々の心得違ひであった。今後西宮支配を離れて田村八太夫配下になりたいとのことで西宮支配所役人正木伊勢に伝えたと、職掌について双方特に申す分もないので熟談の上内済とする。

江戸からの御触書到来

閏三月五日、文政十二年十二月と本年正月の二通の御触書が届く。請印の上濱方惣会所へ遣わす。
一通は東海道沼津宿外十三宿并天竜川、中山道板橋宿外十三宿并河渡川、甲州道中小原宿外三宿が困窮につき人馬賃、船賃共割増銭とする件(三割から五割増)、古金銀式朱判通用停止に伴い引替促進の件、また通は切支丹宗門の儀につき、上方筋で疑わしき者もあらこれを隠し、他所から露見するとその所の者までも罪科となる一件。

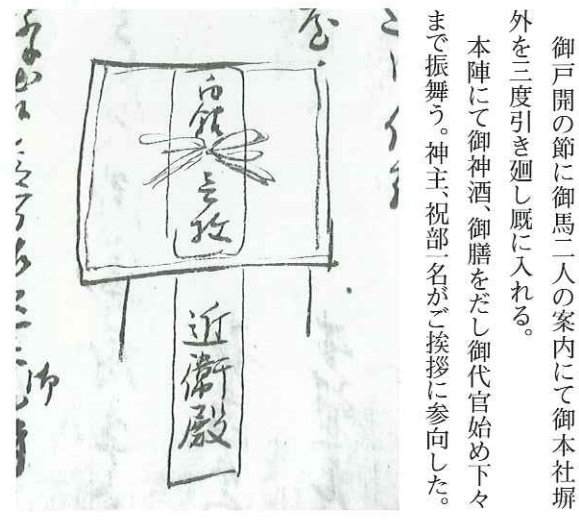
祝部、繁多な折に伊勢、金比羅参り

御撰家の内より神馬御奉納という大切な時期に、祝部田村織衛は伊勢参宮に続いて金比羅参りを行っていた。社家東向も差控え中、橋本弥太郎も服中の人が少ない折のことである。神主へ無届の抜け参りならば格別、届けの上委細を聞かされ神主より差し留められたにも拘わらず参宮したことは許されないうことである。二十日の謹慎を申し付ける。尚、この年は西宮から大勢の人々が伊勢参宮を行った。(お蔭参り)

伊勢で出火

錦織中務大輔殿へ参り、伊勢出火の話聞く。外宮は三百年前に炎上その後は無い。この時の例によりお取斗いされる。閏三月十九日から廿日に炎上、伊勢本社斗に雨が降り四方末社に少しも飛火なしと誠に不思議なことである。町方七百軒も焼け神馬は一見の浦へ逃げていったとの由。

御末社の内荒祭宮は、丹後本伊勢からお遷りの節同社に暫くおうつりされたので、外宮にも劣らない宮の由。三百年前同様のお取斗いがある。尚、この錦織殿は神主上総介の弟である。



御戸開の節に御馬二人の案内にて御本社堀外を三度引き廻し既に入れる。本陣にて御神酒、御膳をだし御代官始め下々まで振舞う。神主、祝部一名が挨拶に参向した。同夜五つ過、数馬らは高張小提灯で横道まで送り、高張持ちは三本松で引取る。伊丹当役は駕籠で出立する。何分にも雨天につき大いに混雑したが、滞りなく行事を終える。四月四日、近衛殿家へ御神馬及び神主御館入りを仰せ付けられた御礼のため上京し、大生鯛一掛、小倉野虎屋三十入、馬代目録、御祈禱巻数を献上する。尚、御馬金子として伊丹へ正月と閏三月と一回に都合五十両持参する。

御神馬講を開く

銀子を預り年一割一步の利息を加えて、来年(天保二年)三月に元利共に返済するという連印證文を作る。これには浅尾市右衛門、植村七左衛門、葛馬忠兵衛、紅野平左衛門、真多長左衛門、當舎久右衛門等全十名が連名している。

松尾社石玉垣を奉納

寛政二年(1790)に当所酒家中より寄進、奉齋された松尾社の周囲にこのたび同じく酒家中より石玉垣が奉納された。世話人は次の通り
米屋万助 辰馬久兵衛
八馬喜兵衛 雑喉屋久左衛門
(石玉垣は阪神大震災で破損し現在は板垣根となっている)

「解説」

原左一郎について

このたびの奉納について初めて発願したのは原左一郎(老柳)であった。この人は江戸田宗哲と言ひ西宮生まれで代々医師の家系である。長崎や江戸へ遊学し当時は近衛家領の伊丹に住居していた緒方洪庵と並び称されるほどの人物であった。

神主・祝部中の館入り

近衛家よりの奉納に合せ、同家への館入りを仰せ付けられる。祝部中の装束の着用、受領について文政十年頃より古田家より再三申立てがあった。これに難義し館入り、近衛家を通してことを運ぼうとしたが結局成就しなかった。

神事舞太夫田村八太夫との関係

西宮社人と神事舞太夫とは、関東で再三争論があった。寛文七年(1667)や元禄十五年(1708)に神社奉行より夷像は西宮、大黒は神事舞太夫がそれぞれ賦与するよう職掌が定められたが、享保十四年(1738)には上総の若白毛で妨げが、またこの年にも職掌についての申立てが出来た。

おこしや祭

西宮に夏の到来を告げるおこしや祭。浴衣を着始める日であることから「ゆかた祭」、またこの頃ビワの実が旬をむかえることから「びわ祭」とも呼び慣わしています。

昨年の平成十九年はあいにくの雨天により、ご神幸は中止となりましたが、武庫川女子大学の学生さんや商店街、氏子崇敬者の方々に協力を頂き、例年以上に賑々しいお祭りになりました。

本年も昨年同様ビワの無料授与・縁日屋台など各種行事を開催いたします。



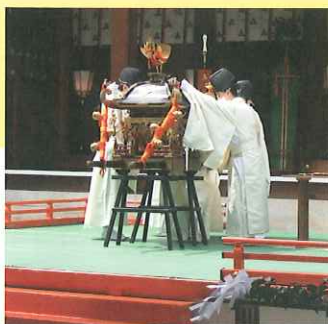
武庫川女子大学三宅ゼミ「鳴尾びわ娘」のみなさん



阪神百貨店・エビスタ内でPR



阪神間に初夏を告げる、浴衣姿の参列者



本殿からご神体をお遷します

◎おこしや祭の流れ(平成十八年)

午後二時 発興祭

えびす様のご鎮座伝承に従いご神幸を奉仕中し上げる旨を奏上し、ご神体を神輿にお遷しします。

午後二時二十分 ご神幸

西宮中央商店街を巡幸し、おこしや跡地を日指します。

午後三時 おこしや祭

和田岬よりご出現されたえびす様が西宮までお越しになる途次、神輿を留めた場所と伝わるおこしや跡地にて祭典を斎行いたします。祭典ののち、びわ娘によりビワの無料授与を行います。

午後四時～午後八時 縁日屋台

おこしや祭終了後、境内松林にて親子でお楽しみいただける縁日屋台等を催します。

午後九時 還御発興祭

えびす様におこしや跡地から本殿へお戻し申し上げる旨をご奉告します。

午後九時二十分 還御祭

ご神体が本殿にお還りになられ、おこしや祭をとり納めます。

※雨天時のご神幸は中止となりますので、拝殿にてビワを授与いたします。

えびす様のご鎮座伝承

その昔、鳴尾の村にひとりの漁師が住んでおりました。ある日、漁師が武庫の海で漁をしていたところ、網にご神像がかりました。しかし漁師は魚ではなかったため、ご神像をそのまま海に戻してしまいました。

その後、漁師は舟を和田岬(今の神戸)に漕ぎ出し、再び漁を始めました。すると、さつき海に戻したはずのご神像がまた網にかかったではありませんか。「これは不思議な事もあるものだ」そう思った漁師はご神像を家に持ち帰り、丁寧に祀りすることにしました。

ご神像をお祀りして幾日か過ぎたある夜、いつものように漁を終えて眠りについていた漁師の夢に神様が現れました。そして「我はえびす大神である。ここより西の方によい土地があるので我を案内いたせ」とのお告げを下されたのです。

「これはただ事ではないぞ」漁師はさっそく村人を集め、えびす様をお神輿に乗せて、西に向けて出発しました。途中お神輿を留め休憩をとりましたが、えびす様はそのまま居眠りをされてしまい、なかなかお目覚めになられませんでした。これではいつまでもたっても出発することができないと、困った漁師は恐れ多くもえびす様のお尻をつねって起こし、ようやく今の西宮神社の鎮座する地に着いたと伝えられています。

宮司祝詞奏上



特別に設けた祭壇



びわ娘がビワを無料授与



子どもに人気の縁日屋台



◎特製うちわ

昨年度より新しくお目見えした特製のうちわ。本年も表面におこしや祭・裏面にみず萬燈籠をデザインし、夏らしい授与品となりました。おこしや祭当日に合わせ授与所で授与いたします。(うちわはイメージです。実物とデザインが変更になる場合もございますのであらかじめご了承下さい)



EBISU TOPIC

えびすトピック

●鈴緒奉納 境内末社の百太夫神社・ 大国主西神社の鈴緒

百太夫神社は「西宮のえびすかき」として有名な人形操りの祖神をお祀りし



新調なった鈴緒(写真は百太夫神社)

●大西幸神さん絵画奉納

平成二十年五月十五日、尼崎市在住の画家大西幸神さんの絵画奉納式が斎行されました。

大西さんは漫画コンビ「ちゃらんぼらん」で漫才師として活躍される一方、画家として個展の開催等、文化人としても活躍しておられました。今年二月からは画家として専念され、日々自宅のアトリエで創作活動に尽力されております。



この度ご奉納頂いた油絵の画題は『えびす大國の祭り』。奉納日の五月十五日は奇しくも大国主大神様をお祀りする大国主西神社の例祭日にあたります。

平成二十二年にはフランスで個展を予定されており、大西さんのますますのご活躍をご祈念申し上げます。

ている神社で、また初宮参りの際、お子様の守り神様として必ずお参りするようになっていきます。

一方の大国主西神社は平安時代に書かれた延喜式神名帳にも載せられている由緒あるお社です。

両社とも風雨に曝され鈴緒が劣化した状態でしたのでご神慮をお慰めるため鈴緒の奉賛をお願いしましたところ、大勢の方からご奉賛金をいただきました。

お蔭をもちましてご奉賛者様のお名前の書かれた鈴緒を麗しく修復いたしました。

この度の境内両末社百太夫神社・大国主西神社鈴緒奉納にいたしました事は、ひとえに皆様のお力添えに依ることと存じ心より厚く御礼申し上げます。

●拜殿に参拝記念証を設置

本年度より参拝者の方とえびす様とのご神縁を深めるきっかけとして頂くため拜殿前に参拝記念証を設置しました。ご記入頂きました参拝証は翌朝の朝御饗祭(天神様に朝の食事を供奉する神事)に合わせご神前にお供えし、ご神助を祈願致します。また神社からのご案内を、ご希望の方には年中行事表と六月・

えびす Q&A

Q 祈禱を受けたのですが、予約は必要ですか？また料金・駐車場の有無等詳しく教えてください。

A 予約制ではございませんので、当日直接社務所の祈禱受付にお申し出下さい。ただし日によっては祭典等でご祈禱をお待ち頂く時間が長くなる時間帯がございますので事前に当社社務所(TEL:0798333032)までご確認下さい。

Q 祈禱は五千円よりお気持ちで承っております。また無料の駐車場も境内にございますのでご利用下さい。国道43号線から入っていただきますと便利です。

Q 昨年受けたお札をお返ししたいのですが、どうすればいいですか？

A 本殿西側に納札所がございますので、その中にお納め下さい。他の神社で受けられたものでもお納め頂いて結構ですが、お寺等で受けられたお守・お札はお受けになられたお寺にお問い合わせて下さい。(納札の受付は開門時間中のみです)



参拝参拝記念証

●毎月10日は「十日まいり」 旬祭参列のご案内

一月十日の十日えびすに代表されるように、当社では往古より特に十日が重要な日として認識されてきたようです。氏子崇敬者の方にもっと神社に親しんで頂くこと、本年度より毎月十日の中旬祭後に十二月月それぞれ旬の花をあしらった土鈴「花福鈴」をお下がりとして無料授与いたしますとともに宮司より社頭講話を行います。皆様お誘いあわせの上、ご参列下さい。※旬祭は通常午前十時に斎行いたします。

Q 私の苗字は蛭子と書いて「えびす」といいます。えびす姓について分かる事を教えてください。

A 「えびす」姓(地名のえびすも含め)の多くはえびす信仰の高まりのなから発生したと考えられます。これは「戎」姓が当社の鎮座する兵庫や商業都市である大阪に多い例や、商人の屋号から転化したと考えられる「戎屋」「戎谷」「戎家」「胡谷」「蛭子谷」「蛭子屋」(すべて「えびすや」と読む)といった例から考えられ、商売繁盛のご神徳にあやかるうとした庶民の心情が読み取れるのではないのでしょうか。

また「首すづ縁起のよい字で表した」「恵比須」「恵美須」「恵比寿」「恵飛須」「海老子」といった姓も福神としてのイメージを彷彿とさせます。

漢字に注目すると、「戎」姓は兵庫 大阪を中心とした関西方面に、「胡」姓は広島を中心とした瀬戸内方面に、「夷」姓は鹿児島を中心に九州南部に多い傾向があります。ただし、「えびす」には「古代蝦夷」を指す場合や、「力強い」といった意味もありますので、すべての例がこれに当てはまるとも言い切れません。

一度地元図書館などで地域の歴史を紐解いてみてはいかがでしょうか。思わぬ「えびす」姓の歴史が埋もれているかも知れません。



去る四月に授与された藤の鈴

すが、月によっては社務都合により時間の変更となる場合もございますので事前に当社までご確認下さい。



宮司による講話

Q なぜ西宮神社の本殿の千木はすべて横に切つてあるのですか？
男性の神様と女性の神様では千木の切り方が違うという話を聞いたことがあるのですが。

A 当社の本殿は奈良の春日大社社殿に代表される春日造が三棟連なつた「三連春日造(西宮造)」という独特の様式で、三棟の神殿それぞれに千木(屋根の上に向つて交差して伸びた破風板)がついております。



この千木の先端が横切り(内そぎ)の社殿には女性の神様を、縦切り(外そぎ)の社殿には男性の神様をお祀りするとの思想があり、これに倣えばえびす大神様と須佐之男神様をお祀りする第三殿は縦ぎりになります。

すが、この例に当てはまっております。当社の他にもこの例に当てはまらない神社はたくさんあり、また一つの社殿に男女合わせ複数の神様をお祀りしている例もたくさんあります。

あくまで「思想である」と捉えて頂いたらよろしいのではないのでしょうか。

当コーナーでは引き続き皆様のご質問をお待ちしております。えびす様にご質問の質問から社務の質問まで、どんなご質問でも結構です。◎ご質問は郵便・もしくはFAXにて、〒662-1097 兵庫県西宮市社家町一十七 西宮神社総務課広報係までお願い致します。